

戦場 記者

A Conflict Zone Reporter

監督: 須賀川拓

撮影: 寺島尚彦 宮田雄斗 渡辺琢也 市川正統 協力ディレクター: 小松原茂幸
編集: 牧之瀬勇人 泉妻康周 MA: 深澤慎也 選曲・サウンドデザイン: 御園雅也
企画・エグゼクティブプロデューサー: 大久保寛 チーフプロデューサー: 松原由昌 プロデューサー: 津村有紀
TBS DOCS事務局: 富岡裕一 協力プロデューサー: 石山成人 塩沢葉子
製作: TBSテレビ 配給: KADOKAWA 宣伝: KICCORIT
2022年/日本/102分/5.1ch/16:9 ©TBSテレビ senjokisha.jp

TBS DOCS DOCUMENTARY FILMS



日本人特派員・須賀川拓
彼の瞳がうつしだすものは――。

ガザ、ウクライナ、アフガニスタン、
今世界で起きている危機



日本人特派員が見た 「ニュースを超える」戦争の真実

情報が氾濫する社会で、日々のニュースの波に押し流され埋もれていく真実。TBSテレビ特派員にして、今やYouTubeでも注目を集める。戦場記者・須賀川拓。戦争の被害者は一体誰なのか――。

抜群の行動力と分析力でガザ、ウクライナ、アフガニスタン、世界の戦地を徹底的に歩き、人々を見つめ、浮かび上がる戦地のリアルは、私たちに戦争の残酷な現実を突きつける。激動と混沌の時代に生きる私たちが今観るべきドキュメンタリー映画が誕生する。

テレビの枠に収まらない “新時代ジャーナリスト”の 八面六臂

須賀川は、JNN中東支局長というポジションながら、中東はもとより、ヨーロッパ、アフリカ、西アジアと地球の約1/3という驚異的な広さのエリアをカバーし、世界各地を飛び回ってニュースを発信している。「戦争に白黒はない」と、常に反対側からの視線も忘れない須賀川。彼は時間の制限ゆえに戦争の現実をごく一部しか報じられないテレビ報道の枠を超え、YouTubeやSNSも駆使して戦地の肌感覚とニュースの向こうに広がる光景や真実を危険エリアから撮影クルーと共に日本の視聴者に届けてくる。スピード感溢れる怒涛のレポート、ホンモノの紛争地のヒリヒリした緊張感を伝える語り、筋骨きのない意外性に満ちたYouTube配信は、従来のニュースファンだけでなく若い視聴層も取り込み、平均30万再生以上の人気コンテンツとなっている。彼のチャレンジはテレビ・ジャーナリズムの新しいカタチと言えよう。本作では普段テレビや動画では見られない“平時”の須賀川に、権威ある「ボーン・上田記念国際記者賞」も受賞したスター記者の葛藤や、戦地に足を運び続ける思いも語らせる。

※米・ピュリッツァー賞にない国際報道で優れた業績を上げたジャーナリストに贈られる賞



圧倒的なリアル。そこに住む人々の目線で語られる「対岸の火事ではない」世界の現実

パレスチナでは、イスラエルによって閉ざされた人口200万の街、ガザに入り、4人の子供と妻を空爆で失った男性の静かな慟哭を聞く。一方のイスラエルでは、ガザから無差別に放たれるロケット弾と迎撃ミサイルが空を行き交う異様な光景を伝えた上で、それぞれの当局者に攻撃の正当性を問い質す。アフガニスタンでは、タリバン支配で女性の人權が抑圧される実態のほか、深刻化する貧困と蔓延するドラッグが作り出した「橋の下の地獄」に足を踏み入れる。戦争が続くウクライナではクラスター爆弾が降り注ぐ街の住民や、ロシア軍の占拠で放射能汚染のリスクが激増したチョルノービリ原発の職員に現地取材、ロシアのプーチン大統領が「ネオナチからの解放作戦」と主張する“軍事作戦”が、紛れもない侵略・破壊行為であることを示す。本作は、普段我々が触れる国際ニュースだけでは知りえない、圧倒的なリアル、真実を映し出す。

URL: senjokisha.jp @senjokisha #戦場記者

TBS docs

12.16 (金) ロードショー

ビックカメラ上(販売会館8F)・JR有楽町駅 国際フォーラム出口前
角川シネマ有楽町
03(6268)0015 www.kadokawa-cinema.jp

明治通り沿い 地下鉄B1出口正面 ココチビル8F
〒テアトルシネマグループ
ヒューマントラストシネマ渋谷
03 (5468) 5551 tcg.jp